



京都女子大学

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

京都女子大学発達教育学部
京都女子大学大学院発達教育学研究科
教授 水戸部 修治

1

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

- 1、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりの視点
- 2、「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント
- 3、「分析・整理」のプロセスを重視した授業づくり

2

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない。

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

※原簿教育については、従来の事象的知識の暗記が大学入学者選抜で求められることが顕著になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を求めた最大規模改訂を進める。

3

3

主体的・対話的で深い学びのポイント

- 児童生徒に求められる**資質・能力を育成**することを目指した**これまでの授業改善**の取組を生かす。
- 児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、**授業改善を進める**。
- 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の**質を向上**させることを主眼とする。

『小学校学習指導要領解説総則編』より

4

学習指導要領の趣旨を生かした授業改善のポイント

- 当該単元で育成を目指す資質・能力を、学習指導要領を基に明確に把握する
- 資質・能力を確実に身に付けるため、子供たちにとっての課題解決の過程となる学習活動を工夫する
- 一人一人が学ぶ目的や意義、価値そして楽しさを実感できる評価の改善を図る

6

「読み解く力」育成に向けた更なる展開に向けて

- (1)「読み解く力」育成の視点と関連させ各教科等のねらいを明確化する
- (2)各教科等において日常的に子供が学ぶ必然性を実感できる学習過程を工夫する
- (3)重点的な取組に向けたカリキュラム・マネジメントを生かす

10

「読み解く力」イメージ図



9

(1)各教科等のねらいの明確な把握

【例：小学校国語科 第1・2学年〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと】

ウ 文章の中の重要な語や文を**考えて選び出す**こと。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編(p.71)

「文章の中の重要な語や文」とは、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文、**読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文**などのことである。

11

(2) 子供が学ぶ必然性を実感できる学習過程(例)

③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

- ・具体的な相手に向けて考えを発信・交流する
- ・学ぶ目的を基に学習を振り返る

② 情報を比較し、関連付けて整理する

- ・考えを形成したい、特徴を明らかにしたいなど、整理する目的を明らかにする
- ・発信を見通して、相違点や関連性を把握する

① 必要な情報を確かに取り出す

- ・学ぶ目的を自覚する
- ・課題の解決や再構築への見通しをもつ
- ・必要な情報を選択する

13

(2) 子供が学ぶ必然性を実感できる

学習過程の構築

【例: 小学校国語科 第1・2学年 [思考力、判断力、表現力等]C読むこと】

ウ 文章の中の重要な語や文を**考えて選び出す**こと。

① 必要な情報を確かに取り出す

▲筆者の言いたい重要な語や文を捉えさせる。

紹介したい仕事について図鑑(カード)を作るために、本や図鑑の写真や挿絵、文章の中から重要な文を**考えて選び出す**。

→魅力的な学習目的の設定

14

(2) 子供が学ぶ必然性を実感できる

学習過程の構築

【例: 小学校国語科 第1・2学年 [思考力、判断力、表現力等]C読むこと】

ウ 文章の中の重要な語や文を**考えて選び出す**こと。

② 情報を比較し、関連付けて整理する

紹介したい仕事について図鑑(カード)を作るために、本や図鑑の写真や挿絵、文章の中から重要な文を**考えて選び出す**。

「すごい」と思ったことと、その根拠となる言葉とを結び付けて理由をはっきりさせる。

→図鑑カードとその使用場面の具体的なイメージ化

15

(2) 子供が学ぶ必然性を実感できる

学習過程の構築

【例: 小学校国語科 第1・2学年 [思考力、判断力、表現力等]C読むこと】

ウ 文章の中の重要な語や文を**考えて選び出す**こと。

③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

「すごい」と思ったことと、その根拠となる言葉とを結び付けて理由をはっきりさせる。

お互いの図鑑カードを交流したり、自他の選んだお仕事の図鑑を読み返したりする。

→一人一人が思考・判断し、表現し合うことで他者の思考や思いを読み解く必然性を喚起

16

(3)カリキュラム・マネジメントを生かした取り組み

(例)◇月に〇〇科で研究授業を行う。当日の授業では、自分の考えを、資料を基に根拠を挙げたり例示したりしながら解説できるようにしたい。→いつ頃までに、どのような準備が必要か？

18

3、「分析・整理」のプロセスを重視した授業づくり

○情報を比較し、関連付けて整理する

- ・目的に応じて、どの情報とどの情報とを比較するかを判断する
- ・発信を見通して、比較する観点を明らかにする
- ・情報を比較して、相違点や関連性を把握する
- ・考えを形成したい、特徴を明らかにしたいなど、具体的な目的に応じて、関連性を明らかにする
- ・発信・交流場面を通して、考えが十分整理できたかを振り返る

23

事例1 第1学年

単元名

お気に入りの乗り物で乗り物図鑑をつくって、図書室に置いてもらおう

言語活動

図鑑を読んで、お気に入りの乗り物について調べ、説明する文章を書く。

【単元の主な指導目標】

お気に入りの乗り物について「はたらき」とはたらきに応じた「つくり」や「すごいところ」などの事柄の順序を意識して書くことができる。

(書くこと イ)

乗り物の「はたらき」とはたらきに応じた「つくり」の事柄の順序に気をつけ、必要な情報を見出しや写真とその解説などに着目して選んで読むことができる。

(読むこと ウ、読書)

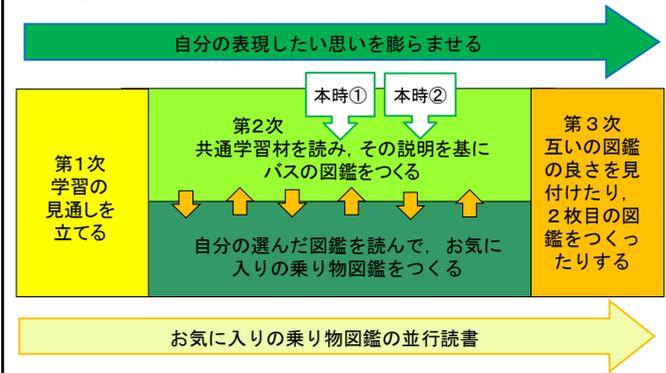
国立教育政策研究所 小学校国語科映像指導資料
『言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり』事例11(2016)

24

単元名

お気に入りの乗り物で乗り物図鑑をつくって、図書室に置いてもらおう

指導計画(10時間)



25

第5時

- ・乗り物図鑑に載せる「はたらき」にぴったり合った「つくり」を見付ける。



- 乗り物の「つくり」を表す言葉に着目しながら、「はたらき」に応じた「つくり」を見付けることができる。（読むこと **ウ**）

※指導事項はH29年版に合わせて改訂。

26

事例1に見られる授業構想のポイント

- 乗り物の「すごい」を説明する上で、「はたらき」にぴったり合った「つくり」を表す重要な語や文を考えて選び出すという目標の明確化。

- 本時の学びが図鑑づくりに密接に結び付き、子供の目的意識を十分に喚起。

- 「図鑑を読む」ことの重点的な指導を実施。

28

事例1に見られる授業構想のポイント

- 文章の構成(書かれている順序)に着目させるための教科書教材の取扱いの工夫。

- 個々の実態を踏まえた関連図書の準備。

- 1年生の実態に合った単位時間の工夫。

- 図鑑→教科書→選んだ図鑑を読む学習の繰り返しで確かな学力の定着。

29